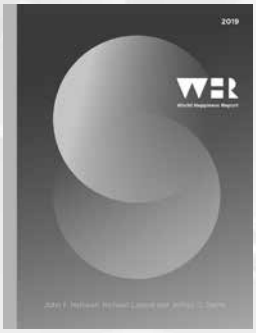
「幸福度」を知っていますか

世界幸福度ランキング、日本はG7中最下位。
国連「世界幸福度報告書」2019年版

ジャーナリスト
三木寛郎

日本は58位で過去最低の「幸福度」

国際幸福デーの2019年3月20日、国連の関連団体が発表する「世界幸福度報告」2019年版が発表された。この報告書はマーケティングリサーチ会社のギャラップが各国のおよそ3000名を対象に行ったアンケート調査のうち、「ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）」に関する回答に基づいて、SDSN※1が主観的幸福度の統計分析を行ったものである。国連が世界幸福度を「ウェルビーイング」という国民の主観によって評価するのは、GDPなどの客観的な経済的指標ではなく、人間の心理的な主観的幸福度こそが重要と判断するからだという。基本となる国連の「幸福度」の指標は、設定された6つの項目に対して、世論調査によって自分の幸福度がどのくらいなのかを0～10の数値で答えてもらい、それの平均値をとったものをランキングとして並べたものである。その6項目とは、



世界幸福度レポート

①人口あたりの国内総生産（GDP）

1つ目は経済的な指標。裕福であること自体が即ち幸福とは直結しないものの1つの指標でもあることは間違いない。これに関しては世論調査というより、国の経済調査によって計られる。

②社会的支援

2つ目は社会的な支援。つまり困ったときに頼ることのできる親戚や友達がどのくらい居るかということである。この項目は、ノルウェーやスウェーデン、デンマークなど北欧諸国が全体的に高い傾向にある。

③健康寿命

3つ目は健康寿命。いわば心身ともに自立し、健康的に生活できる期間の平均値のことである。長寿というだけでなく、健康であることが大切だという考え方である。これは日本がかなり上位にランクインしている項目である。

④人生選択の自由度

4つ目は、人生で何をするかの選択の自由に満足どの程度満足しているかという項目。生活のために自分がやりたくもない仕事をするのではなく、自分のやりたいことをして生活できているかという満足度である。この項目も、北欧諸国が全体的に高い傾向がある。

⑤寛容さ（気前のよさ）

5つ目は寛容さ（気前のよさ）。人を許す気持ちではなくこの項目の寛容さというのは、いわば気前のよさのことである。具体的には過去一か月の間にチャリティ等に寄付をしたことがあるかどうかという設問である。人のためにお金が使えるかということだが、この項目はミャンマーが圧倒的に高い。

⑥腐敗認識度

最後は腐敗の認識度。日常の生活において不満や悲しみ、怒りがどのくらい少ないか、また社会や政府の腐敗が蔓延していないか（国民がそう認識していないか）を調査によって数値化したもの。

この6項目における世論調査の評価と、「ディストピア（＝ユートピアの逆?）」と称する全項目が最低の架空の国との比較を行い、その国の国民それぞれの有意義な人生を解読しようという国連の試みである。今回の結果では日本は58位で過去7年間の中で最も下位に沈んだ。世界第2位の長寿国であり、GDPも24位と高いのだが、「人生の選択の自由度」（64位）と「社会的寛容さ」（92位）が上位国に比較して極めて低い評価となり、順位を下げることになった。ちなみに日本の順位は2016年53位、2017年51位、2018年54位と推移しており、今年は156か国中58位である。

1位となったのはフィンランド、2位はデンマーク、3位はノルウェーとなっており、福祉が充実している北欧諸国が上位を占めている。ちなみに先進諸国と目される先進7カ国ではカナダが9位、イギリスが15位、ドイツが17位、アメリカが19位、フランスが24位、イタリアが36位。日本の58位という順位は先進7カ国中最低である。

内閣府経済社会総合研究所による幸福度指標試案

この「幸福度」に関する国連の調査が始まったのは2013年だが、我が国ではそれに先立つ2011年12月に内閣府経済社会総合研究所が「幸福度に関する研究会報告―幸福度指標試案―」概要という文書を公表している。その文書によれば―幸福度指標とは、幸福度を具体的に見えるように各種指標で表したものである。すなわち、個々人の「幸福」をある程度、地域、時系列で比較可能にした物差しであり、評価のためのツールである―とある。前年度の閣議決定で「成長戦略」に幸福度指標を作成する旨が盛り込まれたことが大きなきっかけだが、背景にはGDPを超えた指標である幸福度指標の作成が、日本だけでなく、欧州、北米、オセアニア、そしてアジアの国々で進んでいるという事実があった。

文書中には「我が国においては、特に所得の増加にも関わらず主観的幸福感が低いという主観的幸福を巡る課題が存在する。」と記されている。

「幸福度指標」作成の意味としては、それまで政策などにおいて焦点化されてこなかった「個々人がどういう気持ちで暮らしているのか」に着目することにある。より具体的には、

①日本における幸福度の原因・要因を探り、国、社会、地域が人々の幸福度を支えるにあたり良い点、悪い点、改善した点、悪化した点は何かを明らかにする

②自分の幸せだけでなく、社会全体の幸せを深めていくためには、国、社会、地域が何処を目指そうとしているか、実際に目指していくのかを議論し、考えを深めることが不可欠であり、その際の手がかりを提供する

2018年 47都道府県「幸福度」ランキング

総合ランキング 2018年	総合ランキング 2016年	都道府県	現行指標ランキング	先行指標ランキング	基本指標、5分野別ランキング 基本指標	分野 健康	分野 文化	分野 仕事	分野 生活	分野 教育
1	**1**	**福井県**	**1**	7	19	8	33	**1**	**5**	**1**
2	**2**	**東京都**	13	**1**	**1**	18	**1**	10	42	17
3	**4**	**長野県**	8	**3**	8	6	11	6	9	14
4	**5**	**石川県**	**3**	12	23	**5**	18	8	12	**4**
5	**3**	**富山県**	**2**	9	26	**3**	39	**5**	**1**	**2**
6	14	山梨県	12	11	24	**2**	6	34	21	16
7	9	愛知県	6	6	**2**	15	**4**	**2**	11	39
8	6	島根県	23	**4**	**4**	13	25	7	**3**	27
9	7	滋賀県	**5**	15	**5**	**1**	12	16	6	42
10	22	山形県	15	19	**3**	32	15	21	8	23
11	26	茨城県	26	13	16	17	19	26	20	7
12	13	岐阜県	7	20	28	12	21	24	4	24
13	23	三重県	30	10	11	11	20	11	10	44
14	8	鳥取県	31	14	14	25	42	14	**2**	8
15	17	埼玉県	16	17	21	27	9	31	17	12
16	11	神奈川県	18	**5**	10	20	10	**4**	14	37
17	10	静岡県	11	26	20	7	27	23	24	36
18	12	京都府	33	**2**	38	24	**2**	22	33	11
19	18	山口県	**4**	32	35	34	36	**3**	15	6
20	21	栃木県	17	18	9	9	24	27	13	38
21	24	佐賀県	29	27	**6**	36	43	12	39	19
22	15	群馬県	34	8	25	16	13	29	22	10
23	27	新潟県	**9**	38	18	38	38	20	23	18
24	20	香川県	32	22	30	26	37	32	25	**9**
25	16	千葉県	14	21	22	10	17	19	34	35
26	25	大分県	21	34	27	14	**5**	18	35	
27	29	広島県	40	24	31	46	26	15	31	20
28	28	秋田県	10	39	12	23	44	37	36	**3**
29	32	岡山県	27	30	36	39	23	13	29	32
30	30	福岡県	41	16	34	40	8	36	27	15
31	33	岩手県	24	41	15	28	35	25	35	30
32	34	宮崎県	28	36	41	21	40	17	31	26
33	40	北海道	20	43	7	45	7	45	36	31
34	35	奈良県	25	33	33	29	14	36	29	25
35	19	熊本県	37	37	32	33	47	30	27	34
36	42	宮城県	38	31	17	22	31	41	28	41
37	41	愛媛県	39	28	40	43	28	35	32	**5**
38	31	兵庫県	19	29	42	19	16	28	30	33
39	39	福島県	22	46	29	30	34	39	41	40
40	36	鹿児島県	35	40	43	35	30	42	37	28
41	37	徳島県	42	25	46	41	45	9	38	13
42	38	和歌山県	36	35	37	31	22	33	44	22
43	44	大阪府	46	23	39	37	**3**	46	40	43
44	43	長崎県	44	44	45	42	46	43	45	29
45	46	沖縄県	45	47	13	**4**	29	47	47	47
46	45	青森県	43	45	44	44	41	40	46	21
47	47	高知県	47	42	47	47	32	44	43	46

という2つのポイントが記されている。

ちなみに一般財団法人日本総合研究所が「全47都道府県幸福度ランキング」として発表している資料によれば、ランキングの基本となるのは、人口増加率などの基本指標と、分野別指標（健康、文化、仕事、生活、教育）など全70指標により都道府県の幸福度を算出しており、我が国における国民の「幸福度指標」が都道府県別に算出されている。4回目となる2018年の結果では、福井県が3年連続で1位となり、東京都、長野県、石川県、富山県が続きトップ5となっている。

細部での差異はあるものの、国連がおこなっている「幸福度」と基本的には同様の項目における評価となっており、日本も世界標準に沿った「幸福度」の評価を行っているといえる。

数値だけでは割り出せない幸福度

さてここで改めて読者諸兄諸姉に質問である。

「あなたは幸福ですか」

この設問に対する回答は、そもそも極めて個人的な感覚が基盤となるものであり、数値に表せる様なものではないはずだ。だいたい、同じ境遇にある人を比べても、人によって幸せだったり、そうでもなかったり、場合によっては不幸だったりすることだって考えられるのである。例えば、テーブルにフライドチキンがあるとする。大好きな人は幸せだろうが、鶏肉が大嫌いな向きには苦痛すら与える境遇であるかも知れないのだ。また、昨日と今日とが似たような日であっても、周囲の状況によって幸福と感じることもあれば、そうでない可能性もある。「幸福度」とは不安定で極めて情緒的な、そして極めて個人的な尺度なのである。そしてこうした設問に対する日本人が得意な回答は「どちらでもない」だろう。それを数値化して比較するというのはなかなかどうして大変な作業なのである。

幸福度に関連するデータとして注目したいのは労働生産性の問題である。日本生産性本部が発表した「労働生産性の国際比較2017年版」によれば、日本人の労働者1人あたりが生み出す利益（付加価値）は8万1777ドルとなっておりOECD35カ国中21位、先進7カ国のなかでは最下位である。ちなみに米国の労働者のそれは（12万2986ドル）であり、日本の労働生産性は米国の70％にも満たない。日本の労働者は過労死するほど働いているにもかかわらず、米国の7割以下の労働生産力しかないということになる。

そうした状況を勘案して生まれたとも言える「働き方改革」（正式名称＝働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律、または働き方改革一括法）だが、どうにも「幸福度」とは筋違いの感は免れない。日本法における8本の労働法の改正を行うための法律だが、そこに盛り込まれたのはご承知の通り

- **時間外労働の上限規制**
- **有給休暇の消化義務**
- **高度プロフェッショナル制度**
- **同一労働同一賃金の推進**
- **衛生管理の強化**

といった要素だが、果たしてこういった内容で労働者の境遇が変えられるのかどうか大いに疑問である。

前述のとおり「幸福度」とは不安定で極めて情緒的な、そして極めて個人的な尺度である。いかに時間外労働の上限を規制しようが、無理矢理有給休暇を取るように仕向けようが、それで解決できる問題ではないのである。事実、仕事が楽しくてしようがない労働者は、時間外労働も休日出勤も厭わないだろう。

なんでも数値に置き換える風潮と、それに引きずられるように展開される働き方改革。

もう一度、数値だけでなく、人の心の動き（＝情緒）に配慮した目線で「幸福度」を捉え、心の通った法整備や制度改革を推進できないものだろうか。

※1　正式名称は「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」（英語名称：Sustainable Development Solutions Network）。持続可能な開発に向けて、学術機関や企業、市民団体をはじめとするステークホルダーの連携のもとに解決策を導き、持続可能な社会を実現するための最善の方法を明らかにして共有することを目的としている国連のグローバルなネットワーク。